

# 離れながらもつながる空間

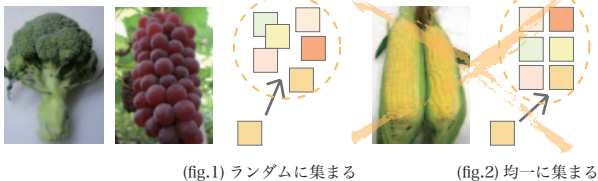
一人になれて一人ではない場所をつくる

指導教員 吉松秀樹教授 印

9AEB2113 大越 菜央

## 1. ランダムに集まることで

微妙な違いを持つ単体がランダムに集まることで、全く違う姿になるものに魅力を感じた (fig.1)。空間も微妙な違いのボリュームがランダムに集まることで違う姿となり、たくさんの場所をつくることのできるのではないかと。

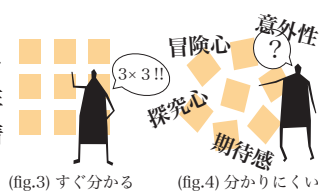


(fig.1) ランダムに集まる

(fig.2) 均一に集まる

## 2. ランダムに集まることの魅力

規則性がすぐ分かってしまふのはつまらない。複雑に配置し、隠れている規則性を探することで、多様な感情が呼び覚まされる。



(fig.3) すぐ分かる

(fig.4) 分かりにくい

## 3. 都市で見つけたランダム

幾何学的に構成された鎌倉の若宮大路近辺は単純で (fig.5)、歩くと平面構成されていることが連想できる。同じような景色 (fig.6) が連続してしまうことで同時にわかりにくさを体感した (fig.7)。



(fig.5) 平面構成

(fig.6) 単調な景色

(fig.7) 自分の場所がわからない

## 4. 内部空間で見つけたランダム

一体感を持ちつつ、距離感のある空間同士も柔らかに差し込む光と、交差する様々な視線でつなぎとめ、周辺の自然と人の姿が融合し、1つの芸術のように感じた (fig.8)。



(fig.8) ロレックスラーニングセンター内部

## 5. 離れているようでつながっている

「SARUGAKU」の空間は複数のボリュームによって形成され、場所ごとに微妙な差をつくり、様々な場所が共存。見え隠れする視線が連続することでゆるやかにつながり、先への期待感と興味が生まれる空間 (fig.9)。



(fig.9) 離れているようでつながっている

## 6. 複雑に相互作用する人の場所

鶴岡八幡宮の上から人の動きを観察。人は自分がとどまれる場所を探していた (fig.10)。

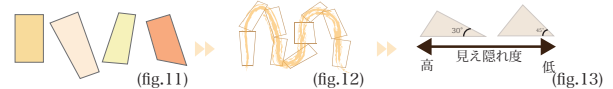


(fig.10)

その風景を見たとき、人の求める場所は単純だと感じた。隙間や少しの段差を好んでそこへとどまる。その光景を全体的に見ると人が複雑に相互作用し点在していた。

## 7. わずかなつながりで意識をつなぐ

微妙に違うボリューム (fig.11) を敷地内に一筆書きで書いた線の上に、左右に振ってランダムに配置する (fig.12)。そうすることによって、あらゆる場所に死角ができる。離れたボリューム同士を微妙な角度でつなげていく (fig.13)。内部は垂れ壁で曖昧な一人の空間をつくりだす。



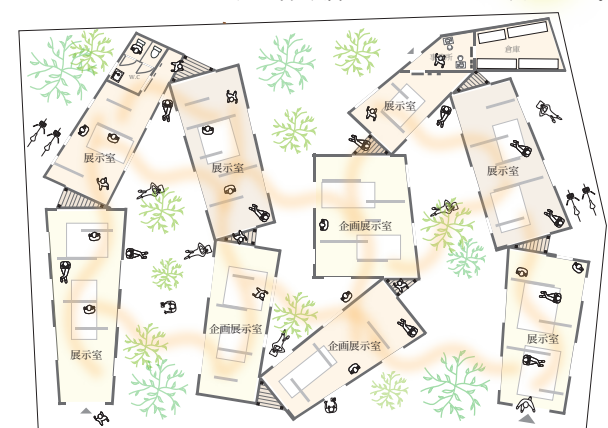
(fig.11)

(fig.12)

(fig.13)

## 8. 「離れているようでつながっている空間」

上記の場所をひとつの部屋だと思イイメージをした。その時ふとワンルームの可能性を感じた。ここにいる人は、とどまる場所を見つけても、その場所は一瞬にして消えてしまう。一人一人の場所をゆるやかにつなげ、ワンルームにたくさんの場所をつくることで、そこが居心地の良い場所となり、「一人一人の存在を確認し、認め合う意識を持つこと」への第一歩になるのではないかと思った (fig.14)。



(fig.14) 離れながらもつながるまちのギャラリー Site plan